

「しんぶん赤旗」

赤旗PR @akahata_PR

赤旗のサイトはこちら



「しんぶん赤旗」定価(税込み) 日刊紙(毎日発行)月3400円、1部120円 日曜版(週1回発行)月800円、1部200円(4月現在)

しんぶん赤旗

2014年新学期号

学生版

発行所 日本共産党中央委員会 東京都渋谷区千駄ヶ谷4の26の7 〒151-8586 電話 03(3403)6111

ファクス 中央委員会 03(5474)8358 赤旗編集部 03(3350)1904 http://www.jcp.or.jp/



あおやま こうへい 22歳、静岡県出身。3月に中央大学法学部を卒業。学生時代、大学での学びとともに、ボランティアやデモに取り組むなどアクティブに活動。

メディアから見えない現実

4月にスタートした新生活に意欲を高めている人も多いが、日本共産党の吉良よし子参院議員と青山昂平さんの先輩2人に、学生生活の醍醐味(だいごみ)を語ってもらいました。

吉良 「ブラック企業」が長時間労働を強いる手口をとりあげ、厚生労働大臣に実態調査などを約束させました。ブラック企業をなくすために、もっと頑張りたいです。私自身、大学4年のときに0社にエントリーして1社しか内定が出

きた。青い社会のことも人ごとじゃなくなってきました。吉良 大事ですね。青山 授業のほかに、社会科学を学ぶサークルや民青同盟(※①)に入っており、被災地ボランティアに行ったり、韓国で日本軍「慰安婦」の方に体験を聞いたりしました。当事者の話を聞き、「戦争は、かっこいいもんじゃな」と実感しました。被災地で「瓦礫(がれき)」といわれるものが、津波で流された写真や洋服・家財だとわかって、メディアからみえなかった社会の現実を理解できるようになりました。

吉良 私も被災地に行き、「普通の生活が流されたんだ」と、胸が締め付けられる思いでした。

吉良 私は、3・11以降、とくに原発事故をきっかけに、みんなの考えが大きく変わったと感じています。原発事故が、多くの人の安全と

吉良 学生時代に学んだり行動したことが、つながった仲間が、卒業後も生きる「宝」だと思います。学生のみならず、ぜひ、いろいろなことに挑戦してほしいですね。応援しています。



U-20デモ(柴野風花さん、長島可純さん) @国会前

「しんぶん赤旗」って?

- 日本共産党の機関紙。1928年2月1日創刊。言論の自由がなかった戦前の暗黒の時代に、侵略戦争反対、国民主権など真実の主張を伝えるために、あえて「非合法」で発行。以来、いかなる弾圧・迫害にも屈せず、真実の報道を続けています。
- 編集局のスタッフは、310人。全国に八つの総・支局をおき、海外ではカイロ、北京、ハノイ、ニューデリー、パリ、ワシントンで特派員が活動しています。
- 日刊紙は全国6カ所の印刷工場印刷され、専用トラックで各地に運ばれ、10万人を超える党員ボランティアなどの手によって、各家庭に配達されます。
- 「赤旗」には、日刊紙のほか、毎週日曜日発行の週刊新聞「日曜版」(タブロイド判36ページ)があります。

購読(または見本紙)のお申し込み——お近くの党事務所または、日本共産党中央委員会へ。☎03(3403)6111、メールアドレス info@jcp.or.jp

学び 社会動かす

参院議員 吉良よし子さん × 今春卒業 青山昂平さん



吉良よし子 日本共産党の参院議員。31歳、高知県出身。早稲田大学第一文学部卒。「ブラック企業」根絶を呼び、昨年の参院東京選挙区で初当選。

国民置き去り政治に抗議

青山 僕にとって、被災者への支援がなすすすまないので、いまの社会の現状を訴えるヒントになったのが社会科学です。マルクス(※②)を読んだことも、その一つで、社会の仕組みを学び、どうやって社会をよくできるかをつかんで、視野が広がりました。

吉良 自分思いを発信して、いろんな人がつながって、すてきなものがたくさんあります。

青山 思い切っちゃってみて、得るものがたくさんあります。

吉良 自分思いを発信して、いろんな人がつながって、すてきなものがたくさんあります。

青山 僕にとって、被災者への支援がなすすすまないので、いまの社会の現状を訴えるヒントになったのが社会科学です。

故郷を奪っていく姿に、声をあげる人が増えてきている。私も参加している官邸前抗議(※③)には、大事な情報を流さないで、国民を置きざりにしている政治やメディアへの抗議の思いがふつと湧いてきます。しかも、実際に、原発再稼働を食い止める力になっている。

青山 僕も約1カ月前に知り合った他大学の仲間たちと秘密保護法(※④)反対デモをやったんですが、フェイスブックで情報を拡散したところ、短期間で500人が集まりました。安倍内閣が、国民の声を聞かずに、大事な問題を決めていることに、「このままじゃいけない」「民主主義を守りたい」と思っている学生が、こんなにいるんだと励まされました。

吉良 秘密保護法に反対するデモを自分たちで企画して成功させた10代の若者たちがいます。その名も「U-20デモ」実行委員会。原発再稼働に反対する官邸前行動を通じて知り合った福島と東京の高校生。今年1月、若者でにぎわう東京・渋谷の繁華街で行ったデモでは、「選挙権のない10代だって、イヤなことにはイヤと言いたい!!」と元気に声を上げました。実行委員会代表の長島可純さん(19)、写真右は、「今の政治をただ黙って見ているのはイヤ。」

長島さんとともに発言し続けてきた柴野風花さん(17)、写真左は、「同世代に、自分たちにもできることがあると気づいてもらえたら」と期待を込めます。

社研ゼミって何だ

関東のある大学で環境政策を学ぶ3年生のAくんは、大学の講義を物足りなく感じていた友人らと3人で、「学生同士で社会問題を議論するサークルをつくりたい」と、社会科学を学ぶ社研ゼミを立ち上げました。週2回昼休みと放課後に集まって、テキストを毎回2、3分ずつ声を出して読み合わせ。よく分からないところや感想を出し合って、議論するというものです。これまで使ったテキストは不破哲三さんの『マルクスは生きています』や、マルクスの『賃金、価格、おまじり利潤』。「本に書いている理論と自分たちの生活を結びつけ、『僕のバイトはブラックバイトだ』と気づき、『非正規の人は、なぜ労働条件が悪いのか』と問題意識が膨らむ。自分が疑問に感じたところに友人も引っかかっていることがわかって、一緒に考えていく社研ゼミは楽しい。」

バイトに 不満7割

7割がバイトの働き方に不満。日本民主青年同盟長野県委員会が、信州大学の学生を対象に実施したアルバイト調査が話題になっています。県庁で記者会見して改善を訴えました。調査は昨年から年末にかけて2333人から聞き取り。23%が低賃金に不満と回答し、賃金不払いなどブラックな働き方もありました。バイト代は5・4%が「学費」に充て、42・5%が「家賃や生活費」に使っていました。15%がバイトの学業への影響をあげ、「バイトが忙しすぎて勉強できない」「テストの前日にシフトを入られた」との声もありました。「高すぎる学費とバイトの実態を多くの人に知らせたい」と調査チームの信州大生は話しています。

「赤旗」の名物コラムです。今回は学生スペシャル

潮流

新入学のみなさん、おめでとう。目新しいキャンパスで胸を膨らませているのは、さっそく夢中になれるものを見つけたら、目標に向かって勉強に励んだり。バイトに追われ、忙しい学生さんもある。産業革命の時代に、イギリスで蒸気機関車を実用化した、鉄道のパイオニア、ジョージ・スティーブンスンの言葉です。世界中に鉄道をひるげ、人びとの生活を変えました。挑戦には失敗もある。でも、そこに発見や発展もある。と「未来は青年のもの」。この言葉を、いまに伝えたいのは、戦前に生きた川合義雄です。より良い社会をつくる活動をつづける日本民主青年同盟の初代委員長。天皇制政府のもとで貧困や抑圧にさらされるなか、人間の自由と権利を求めて立ち上がり、21歳で国家権力によって逮捕されました。▼どんなときも、自分たちの手で社会を変える。不当なものには声をあげていく。そんな若者たちのたたかいは現在にも受け継がれています。▼秘密保護法反対の集会で、「知る権利を奪うな」と叫ぶ男子学生。原発ゼロの国会包囲行動で仲間と手をつなぎ、「命を守れ」と声をからしていた女子学生。組合をつくらせてブラック企業に立ち向かう青年労働者。変革の場に連帯し、行動する若い力があります。▼21世紀の空気を吸い込みながら、いまを生きているみなさん。時代の息吹や首を感じ取り、何ものをも恐れず、足を踏み出してほしい。日本、世界、そして地球の未来を、ともに切り開いていくために。

